

「学校が面白くない。友達がいらない」という思いが強くなり、不登校となってしまった高2の男子生徒A君への面接過程を細かに報告した。「自己決定してもいいんだ。できる」と面接を通して支援した結果、自らの意志で進路を決めたというところまでの発表が終わり、質疑応答の後、スーパーバイザーからのスーパーバイズを受け発表会が終了した。

相談する者と相談を受ける者との二者間で信頼関係を築き、十分な時間を取り相談者を支援するという行いは、決して容易いことではない。が、しかし、多感な時期を過ごしている子ども達の心の揺れを受け止めて支援する者が必要なこともまた事実だ。所属している学会支部では、学会員に対してさまざまな研修を用意している。今後も、学会員の方々と一緒に研鑽を積んでいきたい。



○ “今目の前にいる子”が見えますか？

毎澤 典子先生 宇都宮市立戸祭小学校校長

私は今小学校に勤務しています。初冬のある日の出来事です。持久走大会の当日、それぞれの年齢に見合った距離を走り切った子どもたちの順位表を片手に、5人10人と校庭に戻ってきました。いよいよ閉会式です。

ふと見ると、何故か私の前をうろうろしている子がいます。よく見ると「順位表」をヒラヒラさせているのです。ぴん！とききました。「試走のときよりも速かったね！」とひと声掛けると、その子は本当に“とびっきりの笑顔”になって友達の前を走っていきました。なんでもないシーンだけれど、私の心はホンワカとしました。

30数年前、私が中学校の教師になったばかりの頃の出来事です。

中間テストの監督をしていました。答案用紙に名前が記入してあるかどうかを見回った後はすることもなくボンヤリと子どもたちを見ていました。ぴよこんと顔を上げた生徒がいます。必死で答えを書いていて首が痛くなったのでしょうか。私と目が合ったので「にこっ」と笑いかけると、その生徒も「にこっ」と笑い返してくれました。同時にその生徒の肩からすーっと力が抜けていくのがわかりました。私はなんだか嬉しくなりました。

本当に何気ない出来事ですが、あの時の子どもたちの笑顔が今も鮮やかに目に浮かんできます。人は「誰かに見守られている」という実感を味わったときこそ、安心して“とびっきりの笑顔”になれるのですね。

皆さんは今、目と目を合わせ「にこっ」と微笑み、目の前の子どもたちに“大丈夫！見ていてあげるよ”というメッセージを送り続けているのでしょうか？

学校教育相談を勉強しているあなた！是非「マン・ウォッチング」を試してみてください。今目の前にいる人がどんな気分にいるか全身で感じ取ってください。そして温かな関心を示すメッセージを送ってください。

そしてまた、学校は様々な事例の宝庫です。担任、教科で出ている教師、部活動の顧問、養護教諭等々が集まって、時々事例研究会を開いてください。仮説をたて、当面の指導支援の手だてを検討し皆で実践して見てください。肝心なことは一度期限を区切って再検討する時間を持つことです。複数の人の目を通すと様々なことが見えてきます。もう一度やり直したいと願っている子どもの姿が見えてきます。

きざな台詞ですが「人が好きでなくてはい」この業界勤まりませんよ！！ね。

○ 日本学校教育相談学会栃木支部【カウンセリング特別講座・合同研修会】

演題 「家族療法の理論と実際」

講師 東 豊先生 神戸松蔭女子学院大学助教授

平成16年12月4日(土) 教育会館5階のホールにおいて神戸松蔭女子学院女子学院大学人間科学部教授の東先生により「最新の家族療法」についての研修が行われた。研修会はホールには立ち見の受講者が出る程の注目の研修であった。午前中は「家族療法の理論」、午後は定員50名限定で「家族療法の演習」が行われた。東先生は、楽しい話し口調で身振り手振りを交えながらエネルギーに研修を進められた。受講された会員の感想を記事として載せる。

○ カウンセリング特別講座

東豊先生の家族療法のトレーニングの午後の演習に参加して



午前の講義で、①トラッキング(人の話を上手に聴く)②アコモデーション(相手にルールに付いていく)を学習した。午後は、希望者がセラピストと疑似家族をロープレイすることになった。それ以外の受講者は、家族療法の実際を観察およびVTRの解析を聴くという形式となった。

私自身は、Th(セラピスト)を希望する勇気はなかったが、家族の一員として家族療法を受ける人の気持ちを体験させてもらいたいと思い手を挙げた。摂食障害の娘(20歳)を夫婦で心配する父親役をやらせてもらった。娘は自分が痩せているという実感はなく会社でも元気である。しかしながら、娘の体重がどんどん減っていくのを目の当たりにして、何とか救って欲しいと家族療法家を訪ねてくるセッティングである。Thが娘の言い分を受け止めれば受け止めるほど、私(父親)の気持ちがどんどん沈んでいくを実感した。一対一のカウンセリングとは違って、家族みんなの気持ちを受け止めるのは大変なことだ。東先生は、家族の問題をパンクチュエーション(切り取って問題を見る)するのではなく、家族の話を上手に聞きながら、家族のもっているよい面(資源)を再発見して、癒してくれる。東先生の落語のような講座を、また受けてみたいと思ったのは私一人ではあるまい。

○ 日本学校教育相談学会栃木支部【月例研修会】

演題 「軽度発達障害児への対応」

講師 小黒 範子先生 栃木県リハビリセンター
相談検査科兼医療部医務課長

平成16年12月4日(土) 教育会館1階の中会議室において栃木県リハビリセンター相談検査科兼医療部医務課長の小黒範子先生により「軽度発達障害児への対応」についての研修が行われた。研修の内容は小黒先生からの事例を提示しながら似たようなケースを受講者側からあげてもらおうといった対話形式で行われた。このような研修の形式をとったのは、「教育現場と医療現場の連携」を考える小黒先生がお互いの現場や立場を理解し合う良い機会にもなると提案されたからである。

先生が提示される事例について「教育の現場」、「医療の現場」とそれぞれの立場からの意見の交換や立場を理解し合う話し合いがなされた。また、受講者からあげられたケースについても小黒先生が本音のアドバイスを下さり、学校現場に所属する先生方にも医療現場の対応や考え方への理解が進んだ研修であった。



○ 日本学校教育相談学会栃木支部【月例研修会】

小黒先生の講座に参加して

作新学院高等学校 齋藤誠一郎

学校と病院が発達障害のある家族にどのような支援ができるのかをモデルケースを通じ、受講生が同じような症例をもち、悩んでいること、またそれに対しての「具体的な対応・支援者の役割」などを自由に発言し、意見を出していく参加型で行われました。

それぞれの症例に対し同様の子供たちを受け持っている先生方が多く、数多くの意見が出され、小黒先生からのねぎらいのこぼれや適切なアドバイスをいただきました。

その中で、母親が子供の客観的発達評価を受け入れられなく、対人関係がスムーズでないときのケースにおいて、「熱心に取り組み頑張っている母子の間に入って行くのではなく、客観的な判断を下して接していくこともある」ということをお聞きし、私はとても心強いお言葉を頂戴したと思い、これを念頭において対応していきたいと思いました。

最後に、学校と保護者と病院及び相談機関との連携をするなかで、養育者が子供の障害を受容するまでの6段階を認識していることの大切さを切に実感しました。

○ 栃木支部よりのお知らせ

①学会認定資格「学校カウンセラー」の取得を目指す会員の皆さんへ

日本学校教育相談学会の認定資格「学校カウンセラー」（入会后2年、所定の研修を受けていることなどの条件を満たしている場合）の取得を目指す会員の方をサポートする栃木支部の活動は「学校教育相談基礎講座」（7/28～30 合計18時間の研修）と「第11回支部研究発表大会」（10/2 研究発表のポイント）などの年間事業計画によりサポートしています。

本誌には月例会（支部研究発表会）の様子や実際に発表された会員の感想などを載せておきましたので、発表会の雰囲気をつかんでもらい「学校カウンセラー」の取得を目指す会員の皆さんには奮って発表して頂きたいと思っています。また、2年に一度、栃木支部発行の学会紀要に原稿を載せる事もポイントになりますので、こちらにも原稿を寄せられてはいかがでしょうか。（今回分の原稿受付は締め切っております）

②日本学校教育相談学会栃木支部広報委員会について

NO. 2では栃木支部の活動の様子を会員の皆様に紹介するつもりで製作してみました。紹介しきれない部分があり製作者は大変残念に思っています。そこで日本学校教育相談学会栃木支部NO. 1を発行後に

行われた支部理事会（10/6）において「より良い支部会報を作る」という目的で栃木支部広報委員会の発足が承認されました。今後は、会員の皆様の声を反映できる会報にしていきたいと考えています。「読みやすい」「会員の声が聞こえる」「様子の分かる」を柱に会報が製作されるように心がけていきます。皆様からの意見や栃木支部関連の事業の講座や研修の際に記事や感想などの原稿も広く取り上げていきたく考えています。下記に、承認された広報委員の氏名を載せておきますので、ご意見や会報に載せたい記事がありましたらご連絡頂ければ幸いです。また、広報委員会より皆様に原稿の依頼をお願いすることがあるかもしれません。その時は、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【日本学校相談学会栃木支部広報委員会】

齊藤 誠一郎（作新学院高等学校情報科学部）

馬場 友治（宇都宮文星女子高等学校）

藤浪 直紀（作新学院高等学校情報科学部）

八島 禎宏（栃木県教育研究所兼任相談員）

谷津 嘉子（栃木県教育研究所相談部）

※ 記載の順番は五十音です

【編集後記】

最近の小中高大を問わずして、悩みや問題を抱える児童や生徒、学生が多く散見されます。いずれの悩みや問題についても同一の内容というものはなく、ケースごとにその要因もさまざまといえます。今回、月例研究会、カウンセリング特別講座「家族療法の理論と実際」、講演「発達障害への対応」が催されました。参加して感じたことは、周囲（教師や関係機関など）の人たちが悩みや問題を抱える人やその家族に対し、どのようにかかわり、援助し、そして支援していくかが1つの共通点でもあったような気がします。

スーパーバイザーや講師の先生の鋭い切り口や、前向きな視点も大変参考になりました。また、ロールプレーや事例を通して参加者からも積極的な意見が多く寄せられ、熱気に溢れた研修でした。これから先も皆さんの実りある研修につながっていけば幸いです。（馬場友治 記）

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内

栃木県教育研究所相談部 日本学校教育相談学会事務局（谷津・高垣）

TEL・FAX 028-647-5682

（発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀）

○平成17年度日本学校教育相談学会栃木支部事業(案)

開催期日	事業名	会場	備考
6月11日(土)	【第14回総会】 「教育相談のこころ」 講師 甲斐 志郎先生	栃木県教育会館	甲斐教育研究所 所長
7月 日() 日() 日()	【学会研修プログラムによる】 未定	栃木県教育会館 大会議室	
8月6日(土) 7日(日) 8日(月)	【日本学校教育相談学会 第17回総会】 記念講演 「思春期の『異能感』と『乖離』の問題を考える ーマンガ『ヒカルの碁』と『ディスノート』からー」 記念講演講師 岩宮 恵子先生	島根県 松江市	島根大学 助教授
10月8日(土)	【月例研修会】 「第12回支部研究発表大会」 コメンテーター 毎澤 典子先生	栃木県教育会館 小会議室	戸祭小学校 校長
11月中	【ワークショップ】四県合同研修会 未定	山梨県	
12月3日()	【カウンセリング特別講座・合同研修会】 講演「認知行動療法」 講師 内山 喜久雄先生	栃木県教育会館 小ホール	筑波大学 名誉教授
1月7日(土) 8日(日) 9日(月)	【日本学校教育相談学会・中央研修会】		
1月21日(土)	【月例研修会】 講演「小児科医から見た児童臨床」 講師 渋川 典子先生	栃木県教育会館 中会議室	
2月4日(土)	【精神医学特別講座】 講演「PTSDへの理解と対応」 講師 檜林 理一郎先生	栃木県教育会館 小ホール	日本家族療法 学会会長

日本学校教育相談学会栃木支部協賛研修会

7月30日(土) ～8月1日(月)	【県教育研究所箱庭療法研究会】 箱庭療法研修	ホテル たかほら	
----------------------	---------------------------	-------------	--

※事業計画案は変更の可能性があります。事業計画案は6月11日の総会を経て決定されます。

○第17回総会・研修会（島根大会）実践事例・研究発表原稿募集のお知らせ

- ①発表時間等 発表時間20分、協議40分
- ②発表テーマ例 問題行動を示す子どもへのかかわり・支援、授業の中でいかにカウンセリングマインド
スクールカウンセラーの役割・活用等校内での連携、学級経営に関する実践事例や研究
開発的な教育相談に関する実践事例や研究、進路ガイダンス機能に関する実践事例や研究
など
- ③発表資格 正会員で、会費を納入している方に限る。
- ④申込み先 日本学校教育相談学会 第17回 島根大会実行委員会
と申込み方法 〒690-0873 松江市内中原町 255-1 島根県立松江教育センター教育相談スタッフ内
TEL 0852-22-5874 FAX 0852-28-2796 申込みはFAXにて